



うさぎだより

中野区議会議員●無所属

佐藤ひろこ

[事務所] 〒164-0001 中野区中野 1-33-9 TEL/FAX.3368-9107 [区議会] 〒164-0001 中野区中野 4-8-1 無所属控室 TEL.3228-8874
http://homepage2.nifty.com/usagidayori/ mail:usagidayori@hotmail.com 編集・発行:住民自治をすすめる政策研究会

佐藤 困窮は、お金が無いというだけではなく、家族や心配してくれる人がいないなど、関係性の困窮が大きな問題である。関係性が困窮している人と地域社会の絆を結び直すことが大きな課題だ。区長はこのような課題をどのように認識しているのか。

田中大輔区長にインタビュー



佐藤 第1回定例会で、3期目への意欲を表明されました。なぜですか？

区長 中野駅周辺や防災公園の整備がはじまり、西武線地下化による開かずの踏み切り問題の解決など、長年動かなかった大きな事業がようやく動き出したところですよ。また、少子高齢化に向けて、すこやか福祉センターや子育て支援センターの整備な

ど、子育てや高齢者・障害者のための拠点作り、区民活動センターの整備や地域の支え合いをつくる動きなど、やらなければならぬ大きな課題があるからです。

佐藤 一番取り組みたいことは何ですか？

区長 子育てから介護まで、地域での支え合いのネットワークづくりです。

第1回定例会 一般質問

地域社会の絆を結び直す

日本が経験したことのない少子高齢社会を迎え、社会システムの再構築が必要になってきています。経済活動の停滞などにより、社会問題も大きく変わってきました。

交通事故死の5倍にもなる自殺者数の増加、1人暮らし高齢者の孤立化や孤独死問題、若者の引きこもり、また、子どもや高齢者などに対する虐待の問題も深刻化しています。人のつながりが薄くなってきているからだと考えられます。絆を結び直すために、地域での支え合いのネットワークが必要です。



新しい母子生活支援施設さつき寮のパソコンルーム

びつけるものになっていくと考えている。

佐藤 行政の役割も、関係性の困窮者に対する支援が重要

になってきている。安心できる地域社会をつくっていくために、孤立する人と社会の絆を結び直すことが重要。絆を結び直すことは、行政だけではできない。区民とともに取り組む必要がある。どのように考えているのか。

区長 民間や地域の力を生かしながら進めたい。各窓口の連携を強め、相談支援を拡充していく。

佐藤 孤立している人に向く、アウトリーチ型相談支援が展開できるように、「すこやか福祉センター」はじめ人員の充実を図るべきだ。

区長 7月に開設する「すこやか福祉センター」では、幅広い相談支援をワンストップで行う。積極的に地域へ出るアウトリーチ型の相談支援を充実する体制とする。

新しい公共づくりを

佐藤 行政主導のやり方を変える、区民活動センターの住民団体による運営への転換や、支えあいネットワークづくりは、新しい公共づくりの一つである。区長は、新しい公共についてどのように考えているのか。

区長 新しい公共については、真の地方分権を推進していくためには、区民の自主的・主体的な活動がさらに発展し、地域における人々の連携を強め、地域を豊かにしていく力となるよう、自主団体の活動を支援していく。小さな区役所で質の高い行政を進めていきたい。



区民活動と 行政の連携を

佐藤 社会福祉協議会の支援事業「まちなかサロン」は地域で人のつながりづくりに貢献している。その一つに「なでしこ会」というグループがある。地域の方々が手づくり品をつくる活動だけではなく、障害者作業所や国際交流協会へボランティア活動を広げている。地域の絆を結び直すためには、このような活動が活発に展開されていくことが重要だ。4年前に「区民公益活動の推進に関する条例」を制定し、基金からの助成など、区民活

動を支援する仕組みをつくった。8割近くが子育て支援活動への交付である。さらに改善し、PRを積極的に行っていくべきだ。

1階にある公益活動情報コーナーをなぜやめるのか。
9階の担当課で、公益活動情報コーナーの機能を担うそうだが、どう充実していくのか。

区民生活部長 課題もある。区民の暮らしを豊かにする活動に重点を置いて、公益活動の取り組みを行って。

1階の公益活動情報コーナーを廃止したが、支援の縮小ではない。公益活動への支援を全庁的な体制の中で積極的に展開する。

障害児・者の 日中一時支援の拡充を

佐藤 昨年、障害児・者の日中一時支援事業の充実について質問し、江古田の森施設と、えはらハイツの2カ所の日中一時支援事業が開始された。しかし、利用しにくい状況にある。通所施設でも日中一時支援が行えるように、そして移動支援を使って送迎ができるように、仕組みの見直しを。

区長 日中一時支援事業については、短期入所以外の施設についても検討していきたい。広く区民が利用できるような方法を考えたい。

具体的に明示することができない状況だった。

佐藤 財政状況が今までになく厳しい折、すべての事業を今ままでおやりやれるとは思わない。しかし、議論する中で工夫や対応策を見出していくことが区民参加だ。区民の意見を聞く機会を設けるべきではなかったか。

予算担当 今年度はできなかったが、区民の皆様方の意見を聞く機会は設けていく。

佐藤 そういうことは今後はあつてはならない、反省してほしい。

行政評価への参加

佐藤 中野区は区民参加の仕組みとして、専門家5人のほか公募区民10名による外部評価委員会が毎年公開で全分野の施策の評価をやっている。特別支援学級の連合宿泊学習の廃止などは、行政評価結果によるものか。

評価改善担当 これらの事業は、行政評価の見直し対象にはなっていない。

佐藤 「事業の評価結果を予算にどうたっているのになぜ行政評価の中でも出されなかった事業の見直しが出てきたのか。」

評価改善担当 各部が自主的

区民参加の徹底を

予算特別委員会総括質疑

予算編成過程への参加

佐藤 中野区では、予算編成の段階から検討中の主な項目を、毎年12月に区民に示し、全部長が出席した区民と区長の対話集会と意見募集が行われている。先進的な取り組みとして評価している。

しかし、今回は大変厳しい緊縮型の予算を組む非常時の

な対応で、12月の時点では具体的な事業名ではなくゼロベースからの見直しを行うと



いうことが発表された。区民にとつては予算案が議会に出されたときに、ひとり暮らし高齢者などに対する配食サービスへの廃止、特別支援学級の連合宿泊学習の廃止、公益活動情報コーナーの委託の廃止など、初めて知る状況となった。なぜあらかじめ示し、区民の意見を聞くことができなかったのか。

予算担当 国の動向や地方への財源措置なども不明な点が大変多く、個々の事業内容を

に見直しをしていく中で、こういった見直しの項目が出てきた。

佐藤 内部評価で事業を見直す時に、関係者と議論する機会を設けることができるのではないか。

評価改善担当 時代の変化や財政状況を考慮してこのよう

な結果になった。

佐藤 区民の方たちにかかわっている事業については、検討過程をオープンにして議論がされるべきではないか。

評価改善担当 委員がおっしゃることも確かにと思うが、予算編成においては、行政評価の結果を踏まえてやるものと、実際に予算編成方針に基づいて、査定という形で行うものがある。今後は区民にわかりやすい形で予算の編成の透明性を図りたい。

佐藤 外部評価委員会に区民が関心をもっと持てるように、区民全体にかかわる政策については、無作為抽出された区民が評価する機会を設けるなどの工夫ができないか。来年度はどのような改善策を考えているのか。

評価改善担当 行政評価の見直し作業の中で検討していく。

佐藤 区民参加を保障する一番基本になるのが自治基本条例だ。この条例に基づき、あら

福祉サービスを広げて移転新築

母子生活支援施設「さつき寮」

中央5丁目に移転新築された。20年来の念願の施設。各部屋にトイレとお風呂がつき、とても住みやすい母子寮となった。障害者の方も住めるバリアフリーの部屋やパソコンルーム、子どもの学習室、緊急一時保護の部屋もあり、駆け込むこともできる。ショートステイや子どものトワイライトステイなどのサービスも充実し、子どもを抱えたお母さんの安心できる居場所、自立に向けての拠点がやっと完成した。



さつき寮ショートステイ室

療育センターアポロ園

新しい園舎となった、障害児の通園施設。社会福祉法人「全国重症心身障害児(者)を守る会」が区から委託を受けて運営する。発達障害の子どもたちへの相談の充実や、医療的ケアを必要とする子ども達の預かり保育も新しくはじまる予定。



ゆる段階で区民参加の機会が保障されているかどうか、常に検証していくべきだ。
企画調整担当 評価と改善を継続して、かつ的確に行うことで、より充実した区民参加になるように努めたい。

手ごたえのある参加を

佐藤 区長は、手ごたえのある区民参加を掲げて2期8年やってきた。手ごたえのある区民参加についてどう考えているのか。

区長 区民参加ということには二つの側面がある。行政の方針決定に対して関与する参

加と、地域社会をよりよいものにするために行動し、問題を解決し、あるいはサービスをづくり出していく、そういった行動を中心とする参加、この二つがあると思ってる。情報提供や参加の機会が保障されることが大事だ。参加について、機会を拡充できるようにしたい。

要介護の人も入居できる住宅を

佐藤 来年度、本町四丁目に中野区で初めての高齢者向け優良賃貸住宅が民間との連携により建設される。2年前の

質間で、訪問介護を受けている方も入居できるように入居基準の見直しを要望したが、どのように見直されたのか。
住宅担当 高齢者優良賃貸住宅は入居の制限というのはない。本町四丁目については、事業者のほうになるべく制限は設けないようにと伝える。

佐藤 住宅のバリアフリー化についてどのような検討を行っているのか。

住宅担当 第3次住宅マスタープランで、共同住宅の建設に当たっては、手すりの設置、段差の解消などのバリアフリー化の一定の義務付けを打ち出している。共同住宅の

建築条例を考える中で盛り込んでいきたい。

佐藤 都は、東京モデルとしてケアつき賃貸住宅などを提案している。区はどのように検討していくのか。

住宅担当 都モデルのケアつき住宅は、公有地の活用や建設費の補助などが打ち出されている。区としても検討していきたい。

年2回の宿泊学習の継続を

佐藤 特別支援学級の宿泊学習を年1回に減らすとのことだが、小学校1年生からの年

2回の宿泊学習を、工夫を行い実施するべきだ。
学校教育担当 来年度予算の範囲内でどのような工夫ができるか、学校と十分協議し検討する。

障害者雇用に独自の奨励金制度実現

大変財政状況が厳しい中、2010年度予算に、新規事業として養育家庭支援ヘルパーの派遣、また、障害者の雇用を進めるために、従業員201人未満の民間企業に対して、中野区独自の新規雇用にかかわる奨励金制度など、画期的な事業が組まれた。

佐藤ひろこの収支報告

2010年2月～3月

		2月	3月	期末手当
収入	報酬	588,200	588,200	213,222
	費用弁償	6,000	21,000	
支出	税金	75,210	75,210	31,559
	年金・保険	178,460	178,460	15,975
	活動費	52,214	99,541	
	積み立て	6,000	21,000	
	残	¥282,316	¥234,989	¥165,688

*議会に出席すると1日につき3,000円の費用弁償がつく、なくすべきだ。区への返金は法的にできないので、積み立て、区外の団体に寄付をしている。

http://homepage2.nifty.com/usagidayori/

2月1日

区民活動センターへスタート

「中野区の歴史の中で、区民が運営する区民活動センターは初めての取り組み。有意義に活動していきたい。」と、小野委員長のおいさつは、意気込みにあふれていた。東部区民活動センター運営委員会準備会事務室の開設式。準備会は、東部地区の各町会長やボランティアコーナーなど、地域で活動する団体の代表者で構成されている。「役所が一方的にやってきたやり方から、一緒にやっていく時代

になった。」「地域のことは地域で解決する住民自治に参加できうれい。」など、各委員から抱負が語られた。東部、桃園、新井、大和の4地区で、区民活動センター開設に向けての準備がはじまる。



改装された東部地域センター1階で区民の力で運営されている乳幼児親子のびよびよ広場

佐藤ひろこの活動日誌から

- 1月
 - 28 補正予算内示/中野夜回りの会
 - 29 厚生委員会/中野福祉団体連合会新年懇親会
 - 30 おでんくらぶ(医療的ケアが必要な子どもと親の会)在日本大韓国民団東京中野支部新年会
 - 31 「日韓ワールドカップにかかわって」姜誠さん講演会
- 2月
 - 1 東部区民活動センター運営委員会準備会スタート
 - 2 区民と区長の対話集会(東部地域センター)
 - 4 中野駅周辺・西武新宿線沿線まちづくり特別委員会
 - 7 さくら館でもちつき大会のお手伝い
 - 身近に起きる女性への暴力を考える会
 - 中野区国際交流協会新春の集い
 - 8 虹とみどり地方×国政策研究会
 - 10 朝・日友好親善中野・杉並新春の集い
 - 12 中野区民生委員・児童委員大会
 - 13 城山親睦会初午会
 - 14 コーア・ハルモニウムジーク東京第九特別演奏会
 - 17 本会議(区長施政方針説明)
 - 18 東京都教育庁に特別支援学校の教員の充実など要望
 - 19・22・23 本会議(佐藤ひろこ一般質問)
 - 23 手話奉仕員養成講座閉講式
 - 24 予算特別委員会総括説明
 - 26 予算特別委員会
- 3月
 - 1~3 予算特別委員会(佐藤ひろこ総括質疑)
 - 4・5 予算特別委員会厚生分科会
 - 6・7 さくら館まつり(谷戸ファミリー合唱団コーラス)
 - 6 I.L.ねこの手「障害者と家族の関係づくり」懇談会
 - 7 高橋紘士立教大学大学院教授退職記念特別講義
 - 8 桃園デイクラブ
 - 9 衆議院厚生労働委員会子ども手当法案審議傍聴
 - 障害者防災委員会
 - 10 予算特別委員会
 - 11 本会議
 - 15・16 厚生委員会
 - 16 中野区中小企業退職金共済会理事会
 - 17 「知的障害者が地域で暮らすために」区民福祉講演会
 - 18 中野駅周辺・西武新宿線沿線まちづくり特別委員会
 - 19 9中卒業式
 - 22 シンポジウム「聴覚障害者の情報保障を考える」
 - 23 本会議
 - 24 谷戸小卒業式/区民参加の中野をすすめる会
 - 25 障害者防災委員会
 - 26 障害者グループホームについて区民相談
 - NPOダイヤモンドリボン学習会「ワークライフバランス」
 - 27 障害者防災委員会主催防災訓練(旧桃が丘小で)
 - 29 障害児通学支援について相談
 - コミュニティ政策研究会
 - 31 臨時区議会
 - 自治体議員政策情報センター虹とみどり幹事会
- 4月
 - 2 母子生活支援施設さつき寮開所式
 - 3 「どうなる?これからの障害者制度改革」学習会
 - 6 谷戸小入学式/療育センターアポロ園開所式
 - 7 9中入学式/タッチの会
 - 8 東部高齢者会館開所式
 - 14 公園ランチ(ホームレスの人の相談)
 - 15 市川市大洲防災公園視察(中野駅周辺特別委員会)
 - 17 おでんくらぶ(医療的ケアが必要な子どもと親の会)

3月9日

子ども手当は持続可能?

衆議院厚生労働委員会

「平成22年度子ども手当支給法案」の審議を傍聴。私の師である高橋紘士立教大学大学院教授が参考人として、この法案に対する厳しい意見を述べた。財源のことを考えないバラマキ施策で、子どもに直接効果を及ぼす支給の仕方にもなっていない。社会保障政策は持続可能であるべきだ。

中野区の子どもの手当予算36億6千万円(中学校修了前の子ども2万8千人に月額1万3千円支給)児童手当分8億7千万円が子ども手当になるので、区の補正予算額は28億5千万円。そのうち都と区の各負担分は1億7千万円、国

4月3日

庫支出金は24億6千万円。

「どうなる?これからの障害者制度改革」

内閣府障がい者制度改革推進会議政策企画調査官になった金政玉さんの報告を聞いた。たくさんの方々に参加いただいた。障害当事者が主体となつて議論されている推進

会議は、ネット中継がされるなど、情報保障は画期的。でも、この推進会議はまだ法律的



には位置づけられておらず、実効性のある制度改革につながるのかどうか不安なところ。地域からもしっかりと議論を積み上げていく必要がある。

川口有美子さんに大宅賞

有美子さんのお母さん島田祐子さんとは20年前、認知症高齢者の桃園デイクラブをはじめたお付き合い。その後、祐子さんはALSという難病になり体が動かなくなつた。12年間人工呼吸器を付けた在宅生活。その記録「逝かない身体―ALS的日常生活を生きる」(医学書院刊)が大宅賞に輝いた。一行ほど私のことも書いてある。